2024 特報

2024 1/23 第91号

ふくしま

再生短信

試験栽培からの十二年を想う＜続編＞

水は生命（いのち） 真野川上流と生きる

みなさまへ
宗夫です。
自然の恵みの一方で自然の危険と厳しさはつねにあります。人間の智慧によって自然といかに共生していくのかがいま問われています。

2024年元旦、能登半島地震で新年が明けた。本号が「お米収穫・続編」として真野川上流から「宗夫田圃」への水路を確保するご苦労の日々を菅野宗夫さんに語っていただこうとしていた矢先の出来事だった。

前号のお米の収穫に向けての日々（写真1）に先立ち、2015年・2019年と二度の真野川上流の氾濫に見舞われていた（写真2と3）。

2019年10月12～13日、超大型の台風19号が日本列島を襲った。真野川上流の氾濫で土石流が宗夫田圃の一部にも流入（写真4）。緊急の対応を終えた10月20日に再生の会宛に宗夫さんからメールが届いた。

「この度の台風災害については大変ご心配をおかけしました。また、皆さん方遠方より駆けつけて、災害にあった稲穂の刈取りなどの作業誠に有難うございました。全体の収穫収量は、災害により1割程度減収になる見込みです。自然の恵みと背中合わせに自然の脅威があると常に思ってます。自然の生態系で生きていく私たちにとっては、やはり農学はその中枢であり重要だと思ってます。（後略）」

人間の知恵による自然との共生、能登半島地震で明けた2024年の今こそ重く受け止めたい。

（写真1は菅野宗夫さん提供、他の写真&文責・若林一平）

能登半島地震と「珠洲原発」

能登半島地震の震源地近くに建設が計画されていた「珠洲（すず）原発」。建設予定地だった石川県珠洲市高屋町は、今回の地震で住宅の大半が壊れ、陸路も海路も閉ざされて孤立状態に陥った。もし原発が実現していたら、重大事故が起きて住民の避難がより困難になった可能性もあった。建設を阻止したのは、住民らの長年にわたる根強い反対運動だった。・・・1975年に持ち上がった計画は、住民の反対運動と、それを切り崩す電力会社側との28年に及ぶ「闘争」の末、2003年12月に凍結された。

（東京新聞・2024年1月23日付夕刊）

大高受賞祝賀

2024 1/30 第92号

ふくしま
再生 短信

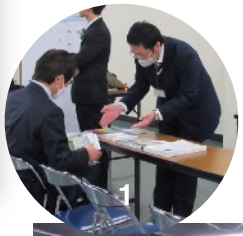
2023年度放射線教育授業事例コンテスト 栃木県立大田原高等学校受賞

快挙！大田原高校「飯舘村実地研修」受賞

2023年12月27日午後1時から公益財団法人日本科学技術振興財団が主催し、復興庁などの後援の下、東京北の丸公園の同財団内において、「放射線教材コンテスト・放射線授業事例コンテスト」の受賞作品発表会と表彰式が行われた。2023年度放射線授業事例コンテストに全国から233作品が応募、うち受賞は6件（最優秀賞2件・優秀賞1件・入選3件）。栃木県立大田原高等学校の『実践的放射線教育「飯舘村実地研修」』（応募代表者・加藤信行教諭、2019～2023年実施）が入選作品として見事に受賞を果たした。

この日、関係者200余名が参集して入選作品の対面発表会と表彰式が行われた。発表会場の大田原高校ブースでは加藤先生がSSC自然科学班制作の研修報告、再生の会の説明資料を配布し（写真1）参加者ひとりひとりからの質問・提言に答えた（写真2）。全国各地の高校に望ましい事例との発言が相次いだ。晴れの表彰式会場（写真3）、加藤先生はやや緊張の面持ちで入場し恭しくも、めでたく表彰状を手にした（写真4）。会場入口で「良いお年を」、終日の大役お疲れ様でした（写真5）。会場を後にして外に出ると暮の夕闇の北の丸公園、良き日の有り難みを胸に帰路についた。

（文責＆撮影・若林一平）


1

2

3

4

5

飯舘村実地研修とは

SSC自然科学班が福島県相馬郡飯舘村で毎年行う実習である。・・・東京大学大学院農学生命科学研究科教授で本校先輩の溝口勝教授をはじめ、ふくしま再生の会の方々のご協力をいただき1泊2日で実施している。

『飯舘村実地研修報告・飯舘の今を知ろう』（栃木県立大田原高等学校SSC自然科学班 沼尾俐玖・中村航大 制作 令和5年度7月12日発行）より

みなさまへ

この度、身に余る受賞をいただき、心から感謝申し上げます。ふくしま再生の会の皆様の温かいご支援とご指導のおかげで、このような栄誉に輝くことができました。令和元年より、生徒と共に、復興のために何ができるかを常に考えて活動してまいりました。これからも精進し、自分たちに何ができるかを考えながら教育活動に取り組んでまいります。改めて、心より感謝申し上げます。

栃木県立大田原高等学校教諭
加藤 信行

322
映像記録公開中

2024 5/28 第93号

ふくしま 再生 短信

2024/3/22 健やかに暮らせるいいたての会設立＜映像記録より＞

高齢化の世紀に世界へ発信

2024年3月22日午後1時より、飯舘村いちばん館で「健やかに暮らせるいいたての会」の発足会が開催。会長には夫と一緒に村で畜産業を営む小林美恵子さん、副会長には村の医療を支えるために飯舘村に移住された本田徹医師が就任。理事として村民から、三瓶たつ子、菅野茂、松原光年、星野勝弥、長田卓也のみなさんが就任。笹川保健財団・喜多悦子会長には顧問を依頼。

この会は住民目線で、高齢化の進む飯舘村でどうすれば健やかな暮らしができるか、若い世代や移住した人達とどう一緒にコミュニティを作っていくのか、村役場などの行政組織が担うこと、住民自身が取り組むことなどを考えるために設立。ふくしま再生の会は2013年に医師や看護師などが定期的に仮設住宅訪問を開始して以来、現在は年8回村内で「健康いちばん！の集い」を開催。この活動を踏まえて住民と一緒に考えるため会の発起人として田尾陽一（事務局）と中町芙佐子の2人の理事が設立に参加。

総会に続くラウンドテーブル討論では、村民のみなさん一人ひとりの体験に基づいて自分の言葉で発言。今世紀の世界に発信する〈いいたての誇り〉を彷彿とさせるものでした。この映像は再生の会・石川哲カメラマンの労作。

（文責・若林一平／本文は再生の会フェイスブックより転載 一部文言修正加筆）

ジンさん（陣内利博武蔵野美大名誉教授、ふくしま再生の会基本デザイン・作者）**逝く** ふくしま再生の会

2024年3月28日逝去、享年68歳。最後の最後まで人間の自由と解放を求めた限りなく誠実な生涯に、合掌。

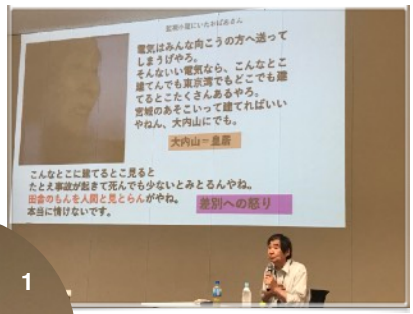
2024 7/23 第94号

ふくしま 再生短信

2024/7/2 「珠洲市圓龍寺住職塚本真如さんに聞く」院内集会報告

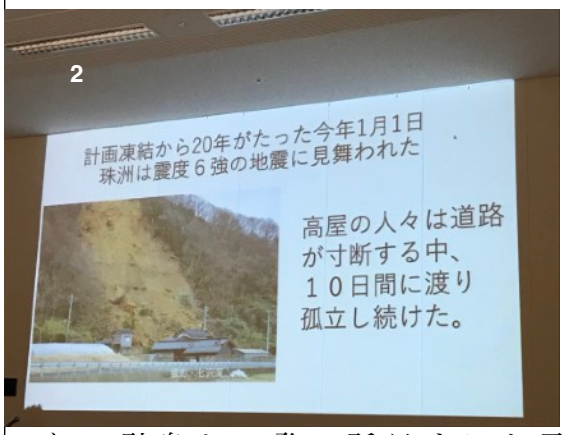
能登地震と原発

2024年7月2日、15時～17時、衆議院第2議員会館で「院内集会・能登地震と原発」が開催された。主催は能登現状報告会実行委員会、共催は（一社）NATURE & HUMANS JAPAN(NHJ)。



院内集会とは議員会館内の会場で国会議員の方々に当事者の生の声を届けるためのイベント、この日も複数の議員が参加。

珠洲の原発立地反対に終始リーダーとして取り組んできた珠洲市圓龍寺住職・塚本真如（つかもと・まこと）さんの報告（写真1）をお伝えする。原発計画凍結から20年今年1月1日、珠洲は震度6強の地震に見舞われた。原発立地の予定地であった高屋の人々は道路が寸断する中、10日間にわたり孤立し続けた（写真2）。原発が稼働していたら能登ばかりか日本列島そのものに引き起こしていた災害は計り知れないものになったであろう。



珠洲原発への電力会社・通産省の動きは1969年に始まる。75年には漁協の反対、76年に高屋町原発反対闘争始まる。89年「珠洲原発反対ネットワーク」結成、高屋に監視小屋。この間、珠洲市議会、県議会、市長選で一貫して争点に。

2003年、電力3社、珠洲原発計画凍結を市に申し入れ。長かった28年。能登だけではない、私たちは救われたのだ。

塚本さんは未だに加賀市への二次避難を余儀なくされている。

◆集会で紹介されました原発反対ネットワークの市長選挙への取り組み、市長選挙無効裁判、用地工作をめぐる裁判の記録。若い現場証人の貴重な証言。山秋真著『ためされた地方自治』（2007・2011・2024、桂書房）

（文責＆撮影・若林一平）

速報！

ふくしま再生の会の総合展示 図図倉庫（飯舘村）にオープン 8月3日 14時・16時

記念ツアー開催

図図倉庫に、ふくしま再生の会のフィロソフィー／活動／未来を表現する総合展示デザインが、北川フラム氏ディレクトのアーティストグループにより完成しました。

地球環境を破壊しつつある近代社会への根底的批判ー自然と人間の共生空間への再生活動を表現するものです。一度ご覧ください。田尾陽一

展示場所は飯舘村の図図倉庫（ZUTTOSOKO）。〒980-1802 福島県相馬郡飯舘村深谷二本木前5-1

ツアー参加を希望される方は開始10分前までに図図倉庫にお集まりください。

申込は必要ありません。直接現地においでください。

2024 8/6 第95号

ふくしま 再生短信

2024/8/3再生の会ズットソーコ展示お披露目ツアー

Umwelt いざな 環世界への誘い

ウムヴェルト

2024年8月3日、晴天のこの日ふくしま再生の会の総合展示が図図倉庫（福島県相馬郡飯舘村深谷二本木前5-1）にオープン。14時・16時に記念ツアー開催。記者は14時のツアーに参加。初めに理事長・田尾陽一さんから展示の趣旨と経緯の説明（写真1）。

飯舘の土壌に始まり素粒子から宇宙史・生物史へと展開し再び飯舘に帰還する環世界（環境世界）の旅の案内は合同会社MARBLiNG代表・矢野淳さんが大役を完遂（写真2）。

展示の総合アートディレクションは北川フラムさん、空間デザイン・施工は一般社団法人コロガロウ／佐藤研吾建築設計事務所、展示デザインは㈱中野デザイン事務所の中野豪雄さん。図図倉庫の空間にはイスナデザインによる宇宙の初めから未来の飯舘村の暮らしを表現したタペストリーが展開。また、壁面を利用して放射性物質についての基本的な図解の展示。霧箱やクルックス管さらにNaI放射線測定器や土壌測定結果を展示。

展示空間の中央付近に飯舘村の立体地図を埋め込んだ大型円形テーブルを設置。村のレリーフを囲んで村長はじめ村民のみなさん。（写真3）

再生の会のメンバーが多数結集。。フラムさん「時間のかかる事業。他の地域では既に20年以上。外国人の役割が大きい、受け入れる意思表示が大切」（写真4）。

（文責と撮影・若林一平）